

20人「専門医療の機会を」

輪島市沖の舳倉島の住民に専門医療の機会を提供しようと、年1回の総合診療が31日始まり、ボランティアの医師や看護師ら約20人が内科、整形外科、耳鼻科、胃カメラなどの各部門で住民を診察した。

同島では自治医科大学の卒後3年目の医師が、半年交代で赴任して診療所を開くが、機材が限られ、専門医療は受けられない。このため、1982年から毎年、赴任経験のある医師などが島に渡って総合診療を行っている。

耳鼻科の担当は、83年から毎年島を訪れている県医師会長の小森貴さん(58)。

83年に受診して以来、27年ぶりに来たという女性(93)に、「大丈夫、全然悪くなっていよいよ」と語りかけると、女性は「ありがとう」と両手を合わせた。

島民の多くを占める海女は、水圧で耳に持病を抱えるケースが多い。小森さんは、耳の骨が盛り上がり穴をふさぐ「外骨腫」を防ぐため、シリコン製の

舳倉島 年1回の総合診療



▶ 舳倉島で、年1回の診療を行う小森さん

耳栓を普及させるなど、島民の健康向上に取り組んできた。また、総合診療のたびにカルテを残し、診療所に赴任する若い医師を援護してきた。

今年もカルテに新たな書き込みを加えた小森さんは、「閉ざされた地域をずっと診て、住民と一緒に年をとっていくことは、医師としてもうれしい」と語った。診療は1日まで行われる。